

## 稲畑産業株式会社

旅と文化とおいしい食事…  
日本とポルトガルの友好を促進

# 大阪日本ポルトガル協会

ポルトガル国名誉領事館と大阪日本ポルトガル協会（以下、葡国名誉領事館、大阪日葡協会）が置かれている稲畑産業。ポルトガルとの関係は、初代社長の稲畑勝太郎氏が1920年にポルトガル国京都駐在副領事に就任したことに遡る。



大阪商工会議所にある稲畑勝太郎氏の銅像。長く会頭も務めていた。

稲畑産業の執行役員で葡国名誉領事館首席秘書、大阪日葡協会事務局長の隅谷康二郎氏によれば「ポルトガルとは特に取引もなかったようですが、ボランティアとして副領事を引き受けたようです」。初代勝太郎氏は、開国間もない明治10年に京都からフランスに派遣された8人のうちの一人で、染色を学び、その経験から国際人としての使命感を持って行動していたのではないかと。このほか、勝太郎氏は関西日仏学館、ヨーロッパ

諸国などでの日本商品館や貿易協会の設立にも尽力している。

初代の遺風残香というべきか、稲畑産業はメセナの中でもとくに国際交流を盛んに行っており、ポルトガルとの交流はその一部。2代目社長の稲畑太郎氏からは代々、葡国大阪駐在名誉領事に就任している。日葡協会は「両国交流450年を記念して設立しよう」という声を受けて、稲畑産業が主軸となって1994年に発足された。ミッションは、両国間の文化と経済交流、相互理解と親善の促進。ポルトガルワインと料理を楽しみ、ファドやポルトガルギターが演奏されるディナーやランチ会、歴史や観光の専門家による講演会、ポルトガル菓子付きの語学教室、美術鑑賞会、史跡見学などの催しがほぼ毎月開かれている。

稲畑産業は今もポルトガルと取引はしておらず「ビジネス抜きのお付き合い」。そのせいか集まる人々も「法人会員よりもポルトガルに興味があるという個人会員が圧倒的」。催しに参加した歴代



今年の例会の様子。  
講演などの後、ポルトガル料理のディナーを楽しむ。

のポルトガル大使は、会員からの熱烈な歓迎ぶりに接して、誰もが必ず「世界で最も活発な友好団体だ」と感激するという。

余談ではあるが、会員間はポルトガル好きという共通項があるため親睦も高く、家族ぐるみの付き合いをしている人も多いのだとか。



大阪駐在名誉領事を務める  
稲畑勝雄会長。

「中にはお子さん同士がご結婚された会員もいらっしゃいますよ」と隅谷氏。なごやかな雰囲気かしのばれるエピソードだ。

「大阪日本ポルトガル協会は、稲畑勝雄会長のもとで約300名の会員の方が加入されています。会の目的は“日本とポルトガル両国間の文化及び経済の交流を促進し、両国間の相互理解と親善の促進に寄与する”と掲げています。事務局の運営方針は会の目的を達成することですが、もうひとつのモットーは“会員の皆様と楽しみながら会の目的を達成する”ことに全力を注いでいます。楽しみながら目的を追求しているようすは、当協会のウェブサイトをご覧ください。また、この輪の中に一緒に入ってください」（年額：法人一口2万円・個人3千円）

稲畑産業株式会社 大阪市中央区南船場1-15-14

大阪日本ポルトガル協会 ホームページ  
<http://www.osaka-portugal.jp/>